

第1次香美市立図書館サービス計画

～ 人、文化、世代、地域をつなぐ図書館 ～

令和3年3月

香美市立図書館

香美市立図書館サービス計画目次

第1章 はじめに

1. 計画の目的
2. 計画の位置づけと期間

第2章 基本理念と基本方針

1. 基本理念
2. 基本方針

第3章 香美市立図書館の現状と課題

1. 図書館の現状
 - (1) 施設の概要
 - (2) 蔵書数の推移
 - (3) 貸出冊数の推移
 - (4) 資料費の推移
2. 図書館の課題

第4章 香美市立図書館の機能

1. 本館の機能
2. 分館の機能

第5章 香美市立図書館の目指す姿と具体的な取り組み

1. 目指す姿
2. 具体的な取り組み

第6章 サービス指標について

1. 年間来館者数
2. 年間貸出点数
3. レファレンス件数
4. 蔵書冊数

資料編

1. 新図書館の施設の概要（案）
2. 開館時間について

第1章 はじめに

1. 計画の目的

香美市立図書館は、平成18年3月の3町村の合併によって、旧土佐山田町立図書館に本館機能を持たせ、旧香北町、旧物部町の図書館が分館の役目を担う形で誕生しました。

平成29年に策定した「第2次香美市振興計画」におきまして、「輝き・やすらぎ・賑わいをみんなで築くまちづくり」という基本理念を掲げました。市民の方々とともに地域の自然や文化などを守り、すべての人がいきいきと暮らせるまちづくりに向けて施策を行っています。

その中で、令和4年度開館予定の新図書館は、すべての人にとって学びの場となり、市民の活動支援を行う必要があります。また、市民が学んだものを発信する場を提供して、その活動を充実させていくことも重要です。こうした活動のなかで、人と人とのつながりを大切にし、地域の活性化を促進します。

新図書館が香美市の「知の拠点」となり、市民の方々に愛され、「人、文化、世代、地域をつなぐ図書館」となるよう、図書館の使命や目標を市民へ示し、それを実践するために策定するものです。

2. 計画の位置づけと期間

(1) 計画の位置づけ

本計画は、市の上位計画である「第2次香美市振興計画」及び「香美市教育振興基本計画（後期）」、並びに、関連する「香美市立図書館建設事業基本計画書」及び「第3次香美市子ども読書活動推進計画」と整合性を図り、より一層の市民サービスの向上に向けて、目指すべき方向性やサービス内容など取組むべき施策を示すものです。

(2) 計画の期間

計画の期間は、令和3年度から令和5年度までの3年間とします。これは、「香美市教育振興基本計画（後期）」の計画年度と終期を同じとし、目標指数等の整合性を図るためにも第1次の計画においては期間を3年間とするものであります。

なお、令和5年度末までにサービス計画の評価と見直しを行い、令和6年度以降、5年間の計画期間を設定し、新たなサービス計画を策定することとします。

(年度)

平成 26	平成 27	平成 28	平成 29	平成 30	令和 元	令和 2	令和 3	令和 4	令和 5	令和 6	令和 7	令和 8
第1次香美市振興計画			第2次香美市振興計画									
香美市教育振興基本計画（前期）					香美市教育振興基本計画（後期）							
							第3次香美市子ども読書活動推進計画					
							第1次香美市立図書館サービス計画					

第2章 基本理念と基本方針

1. 基本理念

香美市は「生涯を通じた豊かな学びと文化活動の充実」を教育振興の一つとして掲げています。この考えに基づいて、新図書館は生涯を通して、市民が充実した学びを享受できる環境を整備する必要があります。また、市内に幼稚園・保育園、小中学校、高校、特別支援学校、大学まである特色を活かして、資料や情報が集まる拠点として、学びの継続性を追求していかねばなりません。

図書館は、人が集まる施設であることから地域間・世代間の交流の場としても活用します。併せて、市民の学びや交流による活動を発信する場を提供して、さらなる発展につなげていきます。そのような理念に基づく活動を通じて、人や文化、世代や地域がつながる場を提供しながら、時代や人と共に育っていく施設を構築していかねばなりません。

また、香美市子ども読書活動推進計画においては、「子どもたちが読書に親しむための機会の充実」、「子どもたちが読書を楽しむための環境を整備」、「子どもたちの読書活動への理解と関心の普及」の3つを基本方針として掲げています。

これらを考え合わせて新図書館の基本理念は以下とします。

人、文化、世代、地域をつなぐ図書館
～「知の拠点」「交流の場」「発信の場」～

2. 基本方針

(1) 知の拠点

地域を支える情報拠点として、豊富な資料を整備し、市民の生涯学習を支援します。また、香美市に関連する郷土資料（歴史や研究資料）の収集につとめ、次世代に継承していきます。

高齢者や読書困難者に対する支援としてバリアフリー関連資料（デージー図書、大活字本、点字資料、LLブック等）の充実を図ります。

課題解決支援として、多様なレファレンスにも対応できるよう自館の資料整備に加え、インターネット環境の整備、学校図書館や高知工科大学附属情報図書館、他の図書館との連携により、利用者に必要な情報を提供します。

(2) 交流の場

あらゆる人の交流の場となる図書館を目指し、豊かな文化活動を育む環境を促進します。読書ボランティアの活動を支援するとともに、市民協働で図書館を運営し、地域に愛される図書館づくりに取組みます。

ボランティア室やグループ室を備え、交流の場を提供することにより、人々の活動を支援します。おはなしの部屋ではボランティアと連携し、子どもの読書活動を推進する取組を行います。また、ボランティアの拡充と育成を図るために、各種研修会を企画し、ボランティアと協働した図書館活動を行います。

(3) 発信の場

広報紙やSNS及びホームページで、機関誌やイベント情報など図書館の活動を館内外に広く発信します。また、市民が学び、習得したこと、日頃の活動を発表・発信する機会を設け、学習及び活動に、一層の意欲が持てる場所にします。

ホールを活用した企画展示や、郷土文化が体験できる事業を計画し、香美市の魅力を市内外に伝え広がります。

第3章 香美市立図書館の現状と課題

1. 図書館の現状

(1) 施設の概要

ア. 本館（香美市土佐山田町東本町 2-1-20）

敷地面積	931.17 m ²	延床面積	695.09 m ²
構造規模	R C造 2階建	駐車場	13台
座席数	54席	学習室座席数	16席
開館時間	10時～18時		
設備	インターネット検索用パソコン（1台） 蔵書検索用パソコン（1台）		
休館日	毎週月曜日及び第3木曜日（祝日の場合は翌平日） 年末年始（12月28日～1月3日） 蔵書点検期間（年3日以内）		
主な事業内容	・貸出し、レファレンスサービス等 ・「子ども司書」養成講座 ・小学校での出前講座 ・職場体験、インターンシップ受け入れ ・読書ボランティア講座 ・各種イベント		

イ. 香北分館（香美市香北町美良布 1103-4 ※令和3年度中に移転予定）

敷地面積	約 100 m ²	延床面積	160.00 m ²
構造規模	R C造 2階建	駐車場	1台
座席数	28席	学習室座席数	無
開館時間	9時～17時		
設備	インターネット検索用パソコン（1台） 蔵書検索用パソコン（1台）		
休館日	毎週月曜日及び第3木曜日（祝日の場合は翌平日） 年末年始（12月28日～1月3日） 蔵書点検期間（年1日以内）		
主な事業内容	・貸出し、レファレンスサービス等 ・各種イベント ・アウトリーチサービス ・保育園、施設への読み聞かせ		

ウ. 物部分館（香美市物部町大柵 1390-1）

敷地面積	物部支所内に有り	延床面積	83.36 m ²
構造規模	R C造 2階建	駐車場	19台 (内身障者用1台)
座席数	17席	学習室座席数	無
開館時間	9時～17時		
設備	無		
休館日	毎週月曜日及び第3木曜日（祝日の場合は翌平日） 年末年始（12月28日～1月3日） 蔵書点検期間（年1日以内）		
主な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・貸出し、レファレンスサービス等 ・各種イベント ・アウトリーチサービス ・保育園、施設への読み聞かせ 		

(2) 蔵書数の推移（3館合計）※公共図書館調査に基づく（視聴覚資料除く）

平成28年度	60,054点
平成29年度	62,047点
平成30年度	67,472点
令和元年度	68,324点

(3) 貸出冊数の推移（3館合計）※公共図書館調査に基づく（個人および団体、相互貸借は除く）

平成28年度	77,437点	
平成29年度	84,606点	
平成30年度	102,549点	貸出冊数が5冊から10冊に増加
令和元年度	93,211点	コロナウイルス感染拡大防止による休館のため貸出冊数減少

(4) 資料費の推移（3館合計）

平成28年度	3,400,000円	建設等検討委員会設置
平成29年度	4,000,000円	
平成30年度	4,000,000円	基本計画策定
令和元年度	2,000,000円	

2. 図書館の課題

新図書館開館に向けて計画的な資料購入の必要があります。新図書館の蔵書冊数は約10万冊（うち開架冊数約65,000冊）です。新図書館開館までに、蔵書計画の目標に達する資料整備を進めていかねばならず、十分な予算確保が必要です。また、学校からの貸出依頼や利用者からのリクエストに応えるためにも、豊富な蔵書を構成していくことは最重要課題です。蔵書構成に偏りが生じないように、利用者のニーズに沿った資料が必要で、段階的に人口規模に見合う蔵

書目標値に近づけなければなりません。利用率が高く、効果的な蔵書構成を保つためにも、新しい資料は恒常的に必要です。そのためには資料費の継続的な確保が必要となります。貸出冊数に関しても、高知県の平均値より下回っているため、貸出利用のさらなる促進が求められます。特にティーンズ層（中学生～20歳程度）の図書館利用が少なく、ティーンズ向けの資料整備や来館へのアプローチが必要です。

また、図書館運営の協力者として、図書館ボランティアの確保に努めなければなりません。図書館の協力者であるボランティアを広く募集することとし、令和2年度には「図書ボラの日」を制定しました。安心して図書館内外で活動ができるよう、ボランティア保険に加入し、積極的なボランティア確保に努めています。今後図書館が集いの場所、生きがいの場所となるよう、ボランティアの確保および活動に関して協働の精神、創意工夫が必要です。

職員に関しては、本館、分館含め職員の半数以上が司書資格を有しています。新図書館に向けてさらなるスキルアップが急務であり、研修への参加や自身での学びを深める努力が必要です。新図書館のコンセプトの一つである、「知の拠点」にふさわしい、司書の資質力向上が求められています。

図書館は本の貸出しのみでなく、様々な活動ができる場所です。市民と協働する図書館づくりを実現するため、「図書館活動を支えたい」と、市民一人ひとりが自発的に活動できるよう、働きかけをしていくことが重要です。また、図書館の存在が人づくりやまちづくりにつながるような施設整備や運営面の充実が求められています。

第4章 香美市立図書館の機能

1. 本館の機能

香美市立図書館（本館）は、香美市の中心部に位置し、分館及び学校等のネットワークの中核を担う図書館です。市民が文化の継承や創造、多様化する社会に対して教養を深めることができるよう、生涯学習の拠点となり、学校支援や県内各公共図書館等との相互協力の窓口としての機能を持ちます。また、分館を支援し、市内全域をサービスエリアとしますが、地域図書館としての機能も併せ持ちます。

2. 分館の機能

分館は、それぞれの町の中心地に位置し、地域の図書館として乳幼児から高齢者まで、市民が気軽に立ち寄れる身近な図書館です。図書館の資料や情報提供、レファレンス等のサービスを実施し、おはなし会やアウトリーチサービスなど、地域に密着したサービスを提供します。また地域の特色にあわせた資料の選定を行っています。

（1）香北分館

子育て世代の利用が多く、おはなし会の開催や、保育園、福祉施設での読み聞かせを行っています。また、イベントの開催や小学校と連携した活動を行い、地域との連携を密にしています。令和3年度には建物の老朽化により、香美市役所香北支所と同一敷地内にある香美市基幹集落センター内への移転を予定しています。移転後はバリアフリーに対応した施設となり、誰もが利用しやすく、人にやさしい図書館となります。

(2) 物部分館

香美市の中でも最も人口が少なく、山間部に位置するため、町内各所へのアウトリーチサービスを提供しています。また、地区公民館と連携した活動を行い、地域の伝統や特色に合わせた選書やイベントを開催し、地域のコミュニティの場として図書館が広く活用されています。

第5章 香美市立図書館の目指す姿と具体的な取り組み

1. 目指す姿

「今日どこへ行く?」、「もちろん、今日も図書館!」

「また、図書館来ようね。」

こうした会話が自然と聞こえてくるような、居心地の良い空間を提供します。図書館が市民のサードプレイスとなり、図書館での学び（インプット）を広く発信（アウトプット）できる場所となる図書館サービスを心がけます。

図書館利用者が、3つの『C』を創出することができる図書館を目標とします。

一. 『Communicate』 伝える

二. 『Creative』 創造する

三. 『Comfortable』 心地良い

図書館を利用することによって、3つのCが生まれるよう、全ての利用者に向けたサービスに取組みます。

2. 具体的な取り組み

ア. 資料整備および情報提供

図書館資料は多様なニーズに応えるため、生涯学習に資するあらゆる分野の資料を「香美市立図書館資料収集方針」等に基づき、収集・保存し、市民が必要とする資料や情報を提供します。また、リクエストに広く応えることができるよう、自館で所蔵していない資料については他館からの取寄せや購入等により、リクエストに積極的にお応えします。

令和4年度開館予定の新図書館には、インターネット閲覧用のパソコンやタブレットを整備し、利用に供することとします。また、自動貸出機を設置し、利用者自身で貸出しの処理や貸出しの延長ができるなど、プライバシーにも配慮し、さらなる利便性を確保します。

新図書館には市民の様々な利用形態に合わせ、静寂読書室、学習室、グループ室を整備し、より快適な空間を提供します。

イ. 郷土資料の収集・保存・提供

香美市や高知県に関係する資料を中心に収集します。図書資料だけでなく、冊子体（パンフレット・リーフレット等）も積極的に収集し、郷土資料コーナーへ配架します。あらゆる調査研究に対応できるよう、歴史的資料の積極的な収集及び適切な保管に努めます。現在所蔵している貴重資料等は紛失や汚損の無いよう、適切な保管に努め、デジタル保存を進めていくこととします。

郷土にちなんだイベントやワークショップ、講演会等を開催し、「香美市に生まれ育って良かった」と誰もが思えるよう、市民の郷土愛を育む事業を定期的に行います。

ウ. レファレンス、課題解決支援

利用者の問い合わせ等に対し、適切な資料提供や情報提供を心がけます。日々の小さな疑問から調査研究等の課題など、どのような質問相談に対してもすみやかに解決へと導けるような支援を行います。そのためにも、図書館職員の知識習得、資質向上はもちろんのこと、パスファインダーの作成や、「レファレンス協同データベース」への登録を積極的に行うことにより、広く情報提供できるようにします。香美市の所蔵資料のみで調査が困難な内容については、県立図書館や各関連機関と連携を取り、課題解決の一助となる支援を行います。

エ. 乳幼児サービス、子育て支援サービス

乳幼児を対象とした「すくすくコーナー」を設け、靴を脱いで上がれるスペースを整備し、乳幼児向けの資料を配架します。絵本や紙芝居、大型絵本など親子が心ふれあうひとときを持てるよう、リラックスした空間を提供します。絵本コーナーにおいては、長年読み継がれている絵本や、子どもの想像力をかきたてる絵本を中心に配架します。

また、生後4か月児を対象としたブックスタートにおいては、すべての子どもと保護者に絵本を手渡すことを目標とします。ブックスタート時には、図書館職員や図書館ボランティア等で個別に読み聞かせを実施するなど、絵本を開く喜びを実感できるような手立てを行います。

新図書館に整備される「おはなしのへや」では、図書館ボランティアと連携したおはなし会を定期的に開催します。市内の読み聞かせグループや学生ボランティアとの連携を図り、ボランティア活動の場を広げます。

子育て支援として、妊娠出産及び育児に関する資料、子育て情報誌などを配架します。また市の母子保健担当課と連携し、育児相談会等を開催します。

オ. 児童サービス

絵本を卒業した児童が、自らで読む力をつけることのできる資料、絵本から児童書への橋渡しができる資料を配架します。読書の楽しみを発見し、豊かな人間性を育てることのできる資料及び調査研究のための資料を幅広く収集します。また、「香美市子ども読書活動推進計画」に沿った自主的な子どもの読書活動を推進するため、学校教育の支援及び家庭教育の向上に資することに留意し、各年齢層に即した資料を収集することとします。

平成23年度から開催している「子ども司書」養成講座においては、児童生徒が司書の業務を学び、学校や地域において広く読書活動ができるよう学校図書支援員と連携して受講生の確保に努めます。

カ. ティーンズサービス

図書館利用者層で、最も利用の少ない年齢層がティーンズ層だと言われています。貸出冊数のみで判断すると利用数値は低いのですが、学習を目的として図書館を活用している学生も多く、ティーンズ層の利用が端的に少ないとは言い切れません。部活動や試験など、読書の時間を十分持てない環境の中、少しでも読書の時間を持つことができるよう、ティーンズ層に向けた資料充実を図ります。児童書を卒業し、一般書への橋渡しを行うことを目的とし、ティーンズ層が興味を抱く資料を重点的に整備します。

また、定期的にティーンズ通信を定期的に発行し、学校への配布等を行います。

キ. バリアフリーサービス

香美市には特別支援学校や障害者施設、高齢者施設等があり、多くの方々が図書館を利用されています。誰もが使いやすい図書館であるために、ノーマライゼーション社会の実現とバリアフリー及びユニバーサルデザインを取り入れ、全ての人に、全ての図書館サービス・資料を提供します。ハード面、ソフト面ともに、いかなる図書館利用の障害があろうとも十分なサービスを受けることができるよう、社会的障壁を解消し、全ての人に向けた図書館サービスを実施します。

大活字資料、LLブック、デイジー資料、点字資料等を整備するとともに、デイジー再生機や拡大読書機の利用も可能としたバリアフリーコーナーを設置します。また、新図書館には対面音訳・録音室が新たに整備されます。十分なサービスを行うためには障害等に対する職員の十分な知識が必要であり、各種研修を通じて職員の資質向上を図ります。さらには、対面朗読のボランティアグループと連携した運営を行うことにより、さらなるサービス拡充を目指します。

ク. 暮らしを支えるサービス

人々の暮らしを支えていくために、移住・定住支援、就業支援、防災に関する資料等を整備します。移住定住に関しては担当部署と連携を図り、香美市関連資料を含め、移住に関する資料収集及び移住相談会等を図書館で開催します。就業支援に関しては定期的にハローワークから提供される求人情報を館内に設置し、資格取得に関する資料とともに「就業支援コーナー」を設置します。

高知県は台風上陸による風水害の被害が多い地域であり、南海トラフ地震により多大な被害をもたらされると予想されている県です。あらゆる災害に備え、防災の知識が習得できる資料を整備します。県や市が発行している防災マップ及び香美市地域防災計画などの行政資料を配架し、市民の防災意識を高めることを目的とした「防災コーナー」を設置します。

ケ. 多文化サービス

香美市は農業の盛んな地域であり、外国人の農業実習生が多く居住しています。また、市内にある高知工科大学にも外国人留学生が在籍し、外国人の図書館利用は年々増加傾向にあります。外国の方が香美市で暮らすために、その生活をサポートできるよう日本語が学べる資料収集や地域での生活を支えるための様々な情報を提供します。また、外国の方と交流を深めることができるよう、外国語によるおはなし会等のイベントを開催し、国籍を超えた交流を深めていくこととします。

外国人だけではなく、文化的少数者等、図書館利用に障害がある方に対して、適切に情報を提供していきます。

コ. 県内図書館との連携

香美市立図書館は地域の図書館として、収集方針に基づいた資入購入を進めていますが、所蔵スペースや予算に限りがあるため、利用者からの全ての要求に応えることができません。

香美市が所蔵していない専門図書や利用者からのリクエストに広く応えるために、県内公立図書館や、大学図書館等と連携した相互貸借を実施しています。

サ. 行政支援、議会支援

市の政策決定及び行政事務に必要な情報を収集・保存し、情報提供を行います。各課の政策における課題を解決できるような支援を行い、資料提供に努めます。行政資料の収集・保存・提供、姉妹都市に関する情報収集など、各部署と連携を図り、行政を支援するとともにあらゆる分野での情報発信を行います。

また、議会との連携はこれまでほとんど行われていませんでしたが、図書館法第3条に議会図書室との連携協力が掲げられています。市議会を支援するためにも市の議会事務局との連携を図り、一般質問や委員会での審議に関する資料の貸出しや、レファレンス等の回答など、積極的な議会支援を行います。

シ. 市内幼稚園・保育園、小中学校、高等学校、大学、特別支援学校との連携

子どもたちの主体的な学び、社会に生き抜く力を持った人材育成のためにも、学校等と図書館の連携は欠かすことができません。学校への団体貸出しやレファレンス等を通じて子どもの読書や学びを支え、香美市子ども読書活動推進計画に基づいたサービスを行います。

アウトリーチサービスや読み聞かせ、図書館出前教室等、図書館側からのサービスだけでなく、児童生徒が主体的に図書館で活動できるような支援体制に努めます。

ス. 地域、市内団体との連携

これからの図書館は地域との連携や、官民協働の取組が欠かせません。地域の特性を生かした特色のある運営や、地域住民の参画による取組を行うことで、図書館活動をより豊かなものにしていきます。地域で活動している個人や団体等が、日頃の活動の成果を発表できる場を提供します。

また、雑誌スポンサー制度を導入し、市内の事業者等が図書館を通じて、広告を用いて効果的にPRできるように取組みます。

セ. ボランティアとの連携

市民と創る開かれた図書館を目指し、地域の情報拠点として図書館と市民がつながるような取組を行います。また、ボランティア活動を通じて、市民と市民がつながりを持てるような活動の支援を行います。

ブックスタートやお話会における読み聞かせ、資料のラベル貼替、高校生を対象とした夏のボランティア等、図書館と市民が連携・協働することで図書館運営をより豊かなものにしていきます。そのためにも、ボランティアの募集や養成は継続的に行う必要があり、新たな人材育成のためにもボランティアに向けた研修会を定期的を開催します。

ソ. インターネット環境

目まぐるしく進歩を遂げる情報化社会において、図書館内のWi-Fi環境の整備や、SNS等を用いた情報発信は、これからの図書館サービスには欠かすことができません。新図書館ではインターネット閲覧用パソコンを増設し、さらには、持ち込みのパソコンやタブレット等にも対応できるよう、館内のどの場所でもWi-Fi接続が可能となるような環境整備を行います。現図書館で既に行っているインターネットを用いた蔵書検索や貸出資料の延長等、今後も利用者にとって、より使いやすいシステム構築を図ります。

第6章 サービス指標について

1. 年間来館者数

令和3年度の香北分館移転及び令和4年度の新図書館開館に伴い、駐車場の確保や蔵書冊数の増加、施設設備の機能が向上します。図書館は様々な利用の仕方があることから、年間来館者数の目標設定は重要なものとなります。人口の減少やコロナ禍において通常の運営ができないこともあり、来館者数の減少がやむを得ません。そのような状況下でも、蔵書構成や運営に工夫を凝らし、令和5年度における年間来館者数は、3館合計で50,000人（令和元年度35,774人の約1.4倍）を目標とします。

2. 年間貸出点数

人口2.5万人以上3万人未満の市町村における、人口一人当たりの年間貸出数は全国平均で4.7冊です（「日本の図書館2019」日本図書館協会図書館調査事業委員会日本の図書館調査委員会編）。香美市立図書館の同年調査による年間貸出点数は3.7冊となっています。香美市は全国平均値との差が大きく、貸出冊数をアップさせるための工夫や努力がまだまだ必要です。充実した蔵書構成はもちろん、インターネット予約や自動貸出機の導入など、ハード面およびソフト面の両面からのアプローチが今後必要となります。

令和5年度における年間貸出数は、全国平均値の4.7冊を目標とします。

3. レファレンス件数

「知の拠点」にふさわしい図書館であるために、様々なレファレンスに対応できるよう司書の資質向上が求められます。また、課題解決に向けての充実した資料整備が必要です。

令和5年度におけるレファレンス件数は、年間2,000件（令和元年度1,288件の約1.5倍）を目標とします。

4. 蔵書冊数

令和4年度開館予定の新図書館は、開架冊数65,000冊、閉架冊数35,000冊、合計10万冊の収蔵能力を持った図書館です。令和2年3月末現在における3館合計の蔵書冊数は68,324冊です。分類の偏りが無いように、また市民のニーズに合った蔵書構成となるよう、新鮮な書架を保ちながら、継続的な蔵書購入を進めていきます。

令和5年度における蔵書冊数は、3館合計100,000冊（うち新図書館蔵書冊数78,000冊）を目標とします。

資料編

1. 新図書館の施設の概要（案）

敷地面積	4,195.92 m ²	延床面積（図書館棟）	1,773.65 m ²
構造規模	混構造（鉄骨・鉄筋コンクリート造・木造）	駐車場	46 台
閲覧室座席数	70 席（内児童 20 席）	学習室座席数	17 席
静寂読書室座席数	5 席	グループ室（全 3 室） 1 室あたりの座席数	4 席
ホール座席数	160 席	飲食室座席数	7 席
開館時間	10 時～18 時（金曜日のみ 19 時まで延長）		
設備	インターネット検索性用パソコン（5 台） 蔵書検索性用パソコン（1 台） 自動貸出機（1 台） タブレット（2 台）		
休館日	毎週月曜日及び第 3 木曜日（祝日の場合は翌平日） 年末年始（12 月 28 日～1 月 3 日） 蔵書点検期間（本館：年 3 日以内、分館：1 日以内）		

2. 開館時間について

現在、本館の開館時間は 10 時から 18 時までとなっています。ライフスタイルの多様化などにより、開館時間の延長を望む声が多くあります。社会人や学生などの利用を考慮した時間帯の開館が望ましく、その時間帯に合わせた職員体制を整える必要があります。しかしながら、香美市立図書館は全館土日祝日も開館しているため、職員の配置については財政的にも厳しい状況です。今後は 3 館の利用状況を検証し、利用状況に応じた開館日時の検討が必要となります。